

千葉歴史の散歩道

本佐倉城～戦国の歴史を刻む千葉氏最後の居城～



文化財課埋蔵文化財班文化財主事

たち 館 ゆうき
祐樹

本佐倉城跡は、京成大佐倉駅より徒歩10分、佐倉市と酒々井町にまたがる印旛沼南岸の標高約36mの台地上に所在する。

三方を湿地に囲われた天然の要害で、台地とつながる西側も土塁や堀により敵の侵入を阻んでいる。北に面する印旛沼は、当時は手賀沼や霞ヶ浦・北浦とつながる香取の海と呼ばれた内海で、交通の要衝であった。



旧香取の海を臨む本佐倉城（酒々井町提供）

文明年間（1469～1486）に下総の守護千葉氏が築城し、天正18年（1590）に豊臣氏に滅ぼされるまでの約100年間、9代にわたって居城し、下総の首府として栄えた。

城の規模は東西約700m、南北約850m、面積は約35万㎡に及び、城を中心に4つの城下町が広がっていた。

現在も郭や空堀、土塁などが往時の姿を偲ばせる状態で良好に保存され、下総地方の城館築造技法の変遷を示す貴重な文化財として平成10年9月11日に国史跡に指定された。

これまでの発掘調査によって当時の城の様子が明らかになった。城の構造は7つの内郭

群と3つの外郭群から構成され、このうち内郭群の城山、奥ノ山、倉跡と呼ばれる郭が城の中心部であったと考えられる。

大手口から主郭へ続く道は、高い土塁に囲われ、狭く蛇行した造りとなっており、その迫力に圧倒される。さらに当時は塀や柵、6つの門によって厳重に守られていたことが調査で確認され、防御性が極めて高く、戦国の緊迫した空気を感じさせる。

城山郭の調査では城主が執務や接待をする空間とされる主殿や会所、庭跡が発見された。かわらけ（儀式用の酒盃）や茶臼、天目茶碗などが出土し、庭をながめながら客人と宴会や茶の湯を楽しんでいたのかもしれない。また、奥ノ山郭では基壇が見つかっており千葉氏の氏神である妙見宮の跡と推測される。



発掘調査から推定される城山郭の様子（酒々井町提供）

整備された城の各所には、調査時の写真を使った解説板が設置されている。発掘調査から明かされた当時の城の情景や城主の暮らしを想像し、いにしへの風吹く城で戦国のロマンに思いを馳せてみてはいかがだろうか。

千葉教育 菊 (No.652) 平成30年10月29日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 秋元 大輔

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc>

印刷所 株式会社白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5 TEL043-423-1101